

第82回 宮城県災害対策本部会議 議事要旨

1 日 時

平成23年6月15日 9時00分

2 場 所

県庁行政庁舎4階 庁議室

3 配布資料

第82回宮城県災害対策本部会議資料

4 議事要旨

○東内閣府副大臣

- ・先般は宮城県の皆様にご心配をおかけした。
- ・気持ちは6月6日に村井災害対策本部長に代読して頂いた通り、引き続き被災者支援に全力を尽くしたい。
- ・現在国会では復興法案が審議中であり、まもなく成立の見込みである。政府として被災地を全面的に支援していく覚悟である。
- ・国際防災会議に政府代表として参加し、開催されたスリランカは「2004年のインドネシアの津波での被災地は現在、ほぼ復興している。」と言っていたので宮城県も必ず復興する。
- ・発災から3ヶ月経過し次のステージに入り、復興への仕組みはできつつある。しかし、制度はできても制度を運用するのは人であり、国、県、市町村が連携していかなければいけない。
- ・宮城県は村井災害対策本部長のリーダーシップで、仕事に取り組んでもらっており、敬意を表する。
- ・瓦礫処理、応急仮設住宅等の復興に今まで以上に頑張っていきたい。国として至らない部

分があれば村井災害対策本部長に報告してほしい。

○村井災害対策本部長

- ・応急仮設住宅について、第1次から10次までの着工として、これまで15の市町において239団地15,804戸を着工し、157団地12,117戸が完成した。
- ・今回は第11次着工予定として1,297戸の着工が決定した。これまでに約75%の供給に目処がついたことになる。
- ・建設の進捗状況については、10の市町では要望戸数に達し、今後の建設必要戸数は約5,700戸となっている。8月中旬までの全戸完成を目標に引き続き被災市町と連携していく。

○小野寺危機管理監

- ・人的被害は26人増加し、9,079人。行方不明者は4,749人になった。避難所避難者数は363箇所、21,420人となっている。
- ・資料中、被害額が間違っているため、おって訂正させていただく。
- ・今回から部局ごとの報告から被害項目ごとの報告に被害額の様式を修正した。

○今野総務部長

- ・東京都から道路パトロール車4台(中古)の提供があった。
- ・田中自動車株式会社から普通自動車3台(中古)、軽トラック1台(中古)の提供があった。
- ・株式会社北見ハッカ通称から普通自動車3台(中古)の提供があった。

○伊藤震災復興・企画部長

- ・仙台空港アクセス鉄道的美田園一名取間で、8月下旬に運転再開の見込みである。
- ・塩釜市営汽船の寒風沢一朴島間では、暫定ダイヤで運行している。

○環境生活部

- ・宮城県内水道水・空間放射線測定結果は、低い数値で安定している。

○保健福祉部

- ・避難所の第2回栄養調査を実施した。資料を参照願いたい。
- ・ボランティアは総勢1,510人であった。
- ・義援金は、177億円になった。

○河端経済商工観光部長

- ・特になし。

○農林水産部

- ・放射能測定結果について、原乳も鮎も基準値を下回った。
- ・昨日、東京電力に対する損害賠償請求の宮城県協議会を設置した。

○橋本土木部長

- ・資料のとおり。応急仮設住宅については本部長の説明のとおりである。

○自衛隊

- ・食料支援については25万5千食である。
- ・入浴支援については44,800人である。
- ・遺体は陸上で12体、海上で2体収容した。

○竹内警察本部長

- ・遺体引き渡し率は99.9%である。
- ・860体の遺体を東京都で火葬受け入れとなった。
- ・震災後間もなく100日のため、6月18日から集中捜索を3日間実施する。

○海上保安庁

- ・遺体を4体収容した。

○小林教育長

- ・県立高校の人的被害について追加した。
- ・被害額に大学を追加した。

○伊藤企業局長

- ・放射能測定について、浄水場発生土と工業用水道の原水を項目に追加した。

○村井災害対策本部長

- ・水道水からはいずれも放射能不検出だった為、飲み水は問題ない。
- ・次回は6月22日10時00分に開催する。